

「地政学リスクの嵐の中でリーダーに求められるもの」

大阪大学 国際連携研究リスク統括室
金 美善

近年、国際社会は、かつてないほど複雑で予測困難な地政学的な変動の渦中にある。国家間の対立の激化、サイバー攻撃の高度化、サプライチェーンの脆弱性の露呈、そしてグローバルな協力体制の揺らぎなど、かつてない規模と性質の「地政学リスク」が、私たちの社会基盤、経済、そして科学技術の発展に深刻な影響を与え始めている。

大学の研究活動もまた、この地政学的な嵐から無縁ではいられない。当然のことながら、これまでの研究リスクマネジメントの枠組みだけでは、新たな時代に直面する複雑かつ斬新なリスクに十分に対応することが難しくなっている。

地政学的な緊張や変化は、大学の研究現場にも静かな、しかし確実な波紋を広げている。以前にも増して、研究者から研究リスクに関する相談が寄せられる機会が増加した。そして、その相談内容の多様性は、もはや単なる個別の問題として片付けられるものではなく、組織全体としての「経営判断」を必要とするレベルにまで高まっている。

このような状況下で、リーダーに求められるものは何なのか。それは、単にリスクを「管理」する能力に留まらず、不確実な環境の中で組織の進むべき方向を示す羅針盤のような存在であることが求められているのではないかと思う。また、研究者からの相談は、単なる事実の羅列ではなく、その背後には研究への情熱や、将来への不安、あるいは倫理的な葛藤が潜んでいることを理解し、リーダーは、表面的な言葉だけでなく、研究者の置かれている状況や感情に寄り添い、真摯に耳を傾ける姿勢を持つことが重要である。これにより、信頼関係が構築され、より有益な情報が集まるようになっていく。

地政学的な嵐が吹き荒れる時代だからこそ、羅針盤のような判断力と信頼関係のあるリーダーによる強靱な研究リスクマネジメント体制を構築することが、大学の持続的な発展と、人類の知の進歩に貢献するために、不可欠ではないか。